令和7年度小学校教科担任制実施報告書（高学年型）

学校名
東広島市立東西条小学校

1　学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	3	3	3	3	3	3	18	4	22

2　加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1)　第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数（週）	授業時数（週）	兼務校での実施
理科	6	3	3	9	
理科	5	3	3	9	
算数	6	1	5	5	

授業時数　計　23 (a)

(2)　その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数（週）	授業時数（週）	兼務校での実施
				0	

授業時数　計　0 (b)

授業時数　合計　23 (a)＋(b)

3　教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1 組（担任： A ）	C	C	A	A	推進	専科	A	専科	A	A	A	A	A
6年 2 組（担任： B ）	B	B	B	推進	推進	専科	B	B	B	B	B	B	B
6年 3 組（担任： C ）	C	C	C	A	推進	専科	C	専科	C	C	C	C	C

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1 組（担任： D ）	F	F	D	D	推進	専科	D	専科	D	D	D	D	D
5年 2 組（担任： E ）	E	E	E	E	推進	専科	E	専科	E	E	E	E	E
5年 3 組（担任： F ）	F	F	F	D	推進	専科	F	F	F	F	F	F	F

4　高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数（人）	担任	担任する学級以外の授業時数（週当たり）				担任する学級の授業時数	授業時数の合計
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計（c）	（d）	(c)+(d)
6-1	28	A	6-3	算数	5	5	18	23
6-2	29	B				0	19.6	19.6
6-3	29	C	6-1	国語	4	5	18	23
			6-1	書写	1			
5-1	23	D	5-3	算数	5	5	17.9	22.9
5-2	27	E				0	22.9	22.9
5-3	26	F	5-1	国語	4	5	19.6	24.6
			5-1	書写	1			

5　成果と課題
（①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他）

	〈効果のあった取組〉		〈成果〉
①	教材研究を深めた授業を、学年内で差がなく受けさせることができた。また、複数学級で授業を行うため、2回目の授業では、流れや発問などを改善しながら、授業の質を高めることができた。 理科のプログラミング学習において、市教委派遣のICT支援員の協力を得て、教科担任が受けた教材研修をもとに、第6学年全クラスで共通した分かりやすい授業を実施できた。	①	クラス間の差なく基礎学力が定着した。 〈令和7年度全国学力・学習状況調査〉 各教科の正答率 国語科　74%　算数科　65%　理科　62% 国語科　7ポイント　理科　5ポイント 全国平均を上回った。 〈単元末テスト平均点〉 第5学年 国語科　81%　算数科　81%　理科　84% 第6学年 国語科　88%　算数科　84%　理科　86%
②	教科担任推進教員が第5、6学年全児童と関わりがもてることから、児童の新たなよさや変化に素早く気付き、教師間で情報交換することで、個々の課題に迅速に対応できた。	②	常時複数の教員が、それぞれの立場で個々の児童と関わることで、チームとして問題行動等に対応できるようになり、多面的な理解が進んだ。 〈教職員アンケート〉 「児童の様子について日常的に他の教科を担当している教員と情報共有ができている」 肯定的回答　100%
③	教科担任制により、教材研究を深めたことで、発展的な学習にも取組むことが可能となり、中学校の学習内容にも触れながら授業を進めた。 授業準備の時間確保によって、個に応じた指導を充実させるだけでなく、担任実施が難しい補充学習も、授業時間外で行った。	③	中学校へ向けての基礎学力の定着や発展的な学習への取組が進んだことで、円滑な接続が期待できた。 〈児童アンケート〉 「中学校から教科ごとに先生が代わることに対して、不安がなくなった」 肯定的回答　86.6%
④	教科担任制により、第5、6学年の理科と算数科（1クラス）を専科とし、国語科と算数を担任間で授業交換をすることで、各担任が担当する教科、時間数を限定した。	④	高学年担任が授業準備、教材研究、学級事務に係る時間を確実に確保できた。 時間のゆとりを生み出すことができ、児童に向き合う時間の確保につながった。 〈教職員アンケート〉 「指導教科数の減少により、教材研究の時間の確保等、業務改善につながっている」 肯定的評価　100%
⑤	教科担任制推進教員の授業を参観できる機会を増やした。	⑤	初任者だけでなく、若手や中堅教員も教科担任推進教員の授業を参観し、授業改善や授業力の向上へとつなげることができた。

	〈課題〉		〈対策〉
①	後半はICT支援員の活用や研修によりICT機器の活用が進んだが、まだ十分とはいえなかった。 担任と教科担任推進教員との連携が不十分になると、学習態度に現れることがあり、クラス間での学習効果に差を生み出すことがあった。	①	ICT研修を計画的・継続的に実施することで、スキルや指導力の向上を図る。 学習規律「話す・聞く・態度等」の共通事項の徹底や学年内での定期的な連携を確保していく。
②	充実した教材準備により個別指導が進み、基礎学力は定着したが、配慮のいる児童について、具体的指導や支援の在り方についての連携が不足したことで、効果的な指導につながらない場面もあった。	②	教科担任推進教員と学級担任、管理職も含めた情報交換や指導の方向性を話し合う場を計画的に設定する。